

平成29年度第1回坂井輪地区公民館運営審議会 会議録

実施年月日	平成29年7月3日(月) 午前10時～		
会場	坂井輪地区公民館 4階 第1講座室	出席委員	9名
		傍聴人	0名
出席者	委員	郷扶二子、江端明夫、石川 潤、内木正宏、佐藤信哉、高橋真規子、横坂幸子、渡辺 瞳、渡辺正友、松尾雅美(欠)	
	事務局	坂井輪地区公民館	阿部靖壽、白井嘉弘、高橋勇人
		西地区公民館	玉木芳博、今城敬子
		黒埼地区公民館	鳴海俊明、小竹憲幸
		小針青山公民館	河原貢司、渡邊ますみ
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度新潟市公民館事業の基本方針について 2 平成28年度西区公民館事業報告・事業評価について 3 平成29年度事業計画(案)について 4 その他 		
審議内容について以下に記載する。			
郷議長	では、これから議事に移ります。「平成29年度新潟市公民館事業の基本方針について」説明をお願いいたします。		
阿部館長	<p>平成29年度新潟市公民館事業の基本方針は、前年と大きな変更はございません。平成22年度に新潟市公民館が改革宣言を行い、「職員が地域に出かけ、住民と一緒に考え、地域の絆づくりを支援する公民館」を目指すことを基本方針の一つとして記載してあります。</p> <p>基本方針で三つの項目を挙げ、3本の柱に基づいて、重点的に取り組む六つの分野が掲げてあります。記載のとおり(1)から(6)を重点的に実施し、それぞれの分野で事業を組み立て、事業実施に合わせて評価し、事業の充実を図っていくものです。</p>		
郷議長	ありがとうございました。ただいまの基本方針につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。		
佐藤委員	<p>事業実施と評価のところで「地域の実状やニーズにあわせた事業を実施」ということですが、地域の実状とニーズは事業計画を作るときに具体的にどのように把握しているのか。中央区が中心になるのかもしれませんが、新潟市全体として取り組んでいこうとしているのですか。</p> <p>以前は、生涯学習の実施計画を作るときには、市民アンケートなどを取って、大学の教授が分析をして作っていたが、今もそうか、聞かせてください。</p>		
阿部館長	<p>公民館の事業は、基本方針の基本施策を基に、中央公民館で重点事業を中心に予算配分されており、その中で、各公民館で独自のカラーを出した事業をやっています。</p> <p>事業実施後、参加者からアンケートをいただき、その結果に基づいて、事業を評価し、次年度事業の内容を充実したり変更を加えたりしています。</p>		
郷議長	ありがとうございました。ほかにかがでしょうか。		

渡辺（正） 委員	新潟市の公民館は平成22年9月に、公民館職員が地域に出掛けて住民と考えると書いてありますが、現実的には何かと制限があると推察されますが、実状はどのようになっていますか。
阿部館長	職員数に限りがあり、頻繁に出かけていくことは難しいですが、事業の中で、参加者から意見を聞くことや、学校での事業実施のため教育コーディネーターとの打ち合わせから、地域の声を聞き、事業を組み立てて実施しております。
郷議長	ありがとうございます。なかなか出掛けて行くというのも、地域の声を聞きながらという形だというお話でした。
横坂委員	参加者のアンケートということですが、参加している人は、関心のある人だけなので、次の事業に反映するのは、少し足りない気がします。地域の実状やニーズを拾う場があるか、また、公民館で拾って地域に合わせて事業をしなければいけないと思うがどうでしょうか。
阿部館長	参加できなかった人の意見を聞くのはうまくできていないと感じています。 事業の参加者を募集し、定員オーバーする事業は、関心が高い人が多いということで、参加した人の要望や意見を聞き、事業の内容を工夫していますが、参加できなかった人の声は、お聞ききする場がありません。
郷議長	ありがとうございました。ほかにかがでしょうか。 佐藤委員、渡辺委員、そして横坂委員のご質問で、出されたものを解決していくと、公民館の活性化にもつながるようなご質問、ありがとうございました。 ここからは、各4館の事業報告と評価、平成29年度の計画について説明していただき、審議を深めていきたいと思えます。まず、坂井輪地区公民館からお願いします。
阿部館長	平成28年度の事業報告、評価、平成29年度の事業計画を説明いたします。 以下資料によって説明。
郷議長	ありがとうございます。4館を続けていくと分からなくなるので、ここで区切って、坂井輪地区公民館について、何かご質問、ご意見はございますか。
横坂委員	平成28年度、「ゆりかご学級」の家庭教育振興事業は、公民館全体の重点事業で、その下の13番の「リビングえる」は、そこで活動した人たちが誰でも来れる場所と思います。それが「中止」で、平成29年度も「随時」となっていて先が見えない。せっかく育ててきて、居場所として定着したところで、なくなるのはどういうことかという点の一つ。 青少年の居場所づくり事業で、参加者数が多いのに、フリースペースに対してスタッフミーティングが「中止」、情報交換が「中止」となっており、平成29年度を見ると「随時」と記載され、この人数を受け入れているが、先が見えないので、そこをお聞きしたい。
郷議長	事務局の前に、高橋委員、関連ですね。お願いします。
高橋委員	私、「リビングえる」のスタッフですので、コメントさせていただきます。 「リビングえる」は、公民館で活動した者が立ち上げたサークルの活動です。

	<p>今、活動するスタッフが仕事等で携われなく、休止状態になっています。公民館からは、いつでも協力するという連絡を受けており、居場所として活動が出来るよう支援していただいていることを報告させていただきます。</p>
郷議長	<p>ありがとうございます。では、この二人の委員の意見を踏まえて、事務局からお願いします。</p>
阿部館長	<p>今ほど説明があった内容と、併せて「Daijobu」でも母親の情報交換の場がありますし、「ゆりかご学級」で、講座が終った後、自主グループとして継続的に活動して、情報交換も行っており、そこで集まった人たちで情報交換ができる場でカバーしていきたいと考えます。</p> <p>フリースペースの利用者は、年々増えているが、フリースペースで居場所として開設した当初は、子どもたちが集まったところで指導をしたり、話をする場所でした。現在は、子供たちが自主的に交流したり、勉強したりしている状況なので、スタッフの代わりとして職員と管理人が常駐し、見守っています。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。私も、この居場所のスタッフをやっていましたが、公民館が変り、今は、フリースペースが居場所になっています。スタッフとしてかかわっていた頃と、子どもたちの求めるものが変わってきており、各自で勉強したり、他校の子どもたちと交流をしている状況です。公民館職員が真ん中の事務所にいるので、見守りということだけだったら職員もいらっしゃるし、夜間は管理人もいて、親しく話して帰って行く子どもたちがいる状況なので、この青少年を対象としたスタッフに関して、ニーズと子どもたちの質が変わってきていると感じますが、そのあたり、石川委員はいかがでしょうか。青少年の居場所に来る子どもたちは中学生が多いのですが。</p>
石川委員	<p>フリースペースを使って青少年は何をしているのか、そこが一つのポイントではないでしょうか。</p>
阿部館長	<p>通常、放課後に集まって、グループで話たり勉強していますが、テスト前は、勉強を一生懸命やっています。これは高校生もそうなのですが、テスト期間中になると朝から来て勉強しているので、子どもたちに声をかけるということもあまりないです。また、フリースペースの奥に小さい音楽室があって、中高生がバンドの活動をやる場所として、それもフリースペースの一つとして考えています。バンド練習については、発表の場もつくっています。</p>
石川委員	<p>居場所としてスペースの提供だけであれば、公民館職員で十分ですよ。どの部分にスタッフが必要であるかをもう少し見ていくことが大切だと思います。スタッフミーティングをしないのではなく、かかわっていくべきことは何かがあるのか、利用者の様子を細かに見取っていくとニーズが出てくると思います。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。</p>
横坂委員	<p>先日、「ほっとハウス笹口」に視察に行き、その中に子どもが自由に行ける場所があり、また40名のボランティアが付き、ほとんど無償ですが、一回始めると辞めないという地域の人たちがいます。</p>

	<p>そこで学んだ人たちがまた次の世代につながる、循環がうまくいっているケースとして視察してきました。</p> <p>これを始めた理由は、中学校が荒れて、地域がだめになるという危機感の中で、小学生のときから地域の人と顔見知りになる場所をつくり、地域の人と中学生が交流を始めて、非行がなくなったと言っていました。</p> <p>地域は子どもを育てる力をつけるため、スタッフミーティングが充実していて、楽しそうに地域力をつけている。</p> <p>そのときに、ここは公民館のようなものですよと言われたのが少しショックで、公民館は生涯学習、循環型をつくる場所で、地域の人材育成をしないと、不要論が出てくる可能性があるかと、私個人としては危機感を感じながら帰ってきました。</p> <p>そのためにも、スタッフミーティングは大きな地域力をつける場所だと思うが「中止」だったり、「随時」と見たときに、地域と子どもたちをつなぐ、ただ見ていけばいいのではなく、それで地域力をつけていくのがポイントのような気がしたので、そういう視点で質問させていただきました。</p>
渡辺（正） 委員	<p>平成 28 年度の事業の報告を見せていただいて、3 点ほどお聞きしますが、一つは、青少年の居場所で「音楽室の開放」登録の中高生バンドが 15 団体で、発表の場を設けているのは、非常にいいと思うが、12 月の発表の場で、参加者が 4 団体なのは、参加条件が厳しいのでしょうか。できるだけ多くの中高生の皆さんに発表してもらえないものか。</p> <p>2 点目は、高齢者の「農業体験事業」で、平成 29 年度は黒埼荘で実施しているが、参加者が収穫したもので、料理教室をやったらどうか。私も、他の事業で料理教室に参加して、食の意識が変わり大変勉強になりました。自分達で育てたものを収穫し、料理することは楽しいという感じがするのですが。</p> <p>3 点目は、平成 28 年度の「西区健康福祉関連事業」ですが、ここでは健康福祉課と関連してウォーキングなど体を動かす事業をやっています。今日「健康長寿」が大きな社会的課題になっております。今回の事業では、延べ 150 人もの方が参加されておりますので、同時に“検診を必ず受けましょう”等の啓発や長寿に関連する講座などもできればよいのではないかと思います。</p>
阿部館長	<p>バンドの発表会に 4 団体しか出なかったという点ですが、演奏が上手になるとライブハウスなどで発表するようになり、日程が合わずに参加できないこともあり、多くのバンドが参加できるように PR していきたいと思えます。</p> <p>農業体験は、そのカリキュラムの中では調理実習は入っていませんが、番外編などで調理実習をやっておりました。今年度は、収穫したものを使って、黒埼荘の利用者と受講生と一緒に食事をする計画です。一緒に食事をする事で、デイサービスの利用者との交流を図れる時間を多くしていきます。</p> <p>健康寿命を長くということが言われているということですが、確かに公民館でもやっていく必要があると考えていますが、今のところは健康福祉でいろいろなことをや</p>

	っているので、事業と調整をしながら、公民館で何ができるのか検討していきます。
郷議長	ありがとうございました。
佐藤委員	<p>先ほどの家庭教育の話に関連するのですが、この事業評価は、小針青山は事業評価で「A」もあるが、ほかの館は「B」だけなのです。多分、予算もない、人もいない、今の事業を継続するのが精いっぱい「B」と書いていると思う。</p> <p>人員、予算がつかなくても、家庭教育の向上、支援などは、重点事業として、もっとやっていかなければならない。子育てサークルを渡り歩いて、時間を過ごすだけでなく、子育てのための勉強がもっと必要だと思うのです。</p> <p>事業拡大の必要性をアピールし、少しでも予算、人員を獲得していく姿勢が見えてこない、今のままで精一杯です。</p> <p>学校の空き教室で、地元とタイアップして子どもたちと地元のボランティアを募って、地元の人と子どもがふれあうことなど、子育てに関係する課とタイアップした事業をやることもいいと思うが、公民館から声を上げていかないと、進まないと思っていますが、どうでしょうか。</p>
横坂委員	<p>新潟市が子育て支援を提唱し始めて、非常に充実しています。</p> <p>公民館事業は何か美味しいものがないと、人が来ない時代に入っていて、実は親が育っていないのです。公民館の役割は、学習して、生涯学習型ですから、お母さんも育つようにという意図が入っています。</p> <p>公民館事業は、チラシなどでPRし、いろいろな先生を呼べます。幼稚園などの子育て支援ではあまりしていないので、講師を呼ぶことは目玉になります。子育て支援でも世の中が変ってきているので、公民館も変わらないと、必要ないと言われる時代に入ってしまうのかと思って、危機感を感じます。</p> <p>公民館が独自の魅力的なものを打ち出していくことが、必要だと訴えていくことが、今求められていると思います。</p>
郷議長	ありがとうございました。
阿部館長	<p>子育て支援の事業は、予算的にある程度ついているので、継続してやっていこうという安易な考えだとは思いますが、そのほか、予算がない中で事業をやるには、西地区公民館がやっていた、コミュニティの活性化事業で、公民館予算ではなく、区役所の地域課から予算をもらい、一緒にやることで事業を拡大したり、健康増進の事業についても、健康福祉課と一緒にやるなど、工夫をして実施していますので、今後もそういうことで考えていきます。</p>
佐藤委員	<p>父親、母親の育ての力をつける、それを支えていくスタッフたちの力をつける、人数を増やすことを、公民館としてやっていく姿勢でないと、掛け声だけ、子育て支援しますだけ、居心地のいいところだけ、ではいけないと思うので、ぜひ考えていただきたい。</p>
郷議長	<p>ありがとうございます。個々の公民館の事業ではなく、公民館事業全般という形になってしまいました。ここから西地区公民館、黒埼地区公民館、小針青山公民館の、</p>

	<p>平成 28 年度の報告、評価、計画について、皆様のご意見を聞きながら進め、総括的な話は最後にとしますので、委員の皆様、ご協力をお願いします。</p> <p>では、西地区公民館、お願いします。</p>
玉木館長	<p>平成 28 年度の事業報告、評価、平成 29 年度の事業計画を説明いたします。</p> <p>以下資料によって説明。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。では、西地区公民館の事業報告、評価、計画につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。</p>
渡辺（正） 委員	<p>平成 29 年度の事業の中で、17 年を迎えたという、新潟大学と、子どもに学校とは違う学びの場を提供するというのは、この地域の新潟大学がうまく利用されて非常にいい結果が出ていると思う。今後もずっと続けていただきたい。財産だと思うのです。以前大学の先生たちに聞いたのですが、内野地区に大学を置かせてもらっていることが、非常に助かっている。ですから地域に貢献するのは当たり前と。地域があつて大学があるということを言われていたのです。これは 20 年も 30 年もやっていただきたいが、一言どうですか。</p>
玉木館長	<p>学生から、西地区公民館の活動に積極的に関与していただいております。「まなび屋」については、学生も 4 年間しかいないのですが、毎年上級生から下級生へしっかりと伝わっており、当番となった年度の学年は、子どもに対しての学びをどのようにやるか、自分たちで考えながら行っています。</p> <p>それを次の学年に引き継ぐということで、大学の先生ともお話をさせていただいたが、学生たちにとっても、子どもとのふれあいは自分たちの成長につながっていると聞いておりますので、ぜひ西地区公民館としても、この活動を途切れさせることなく発展させていければと思っています。</p>
郷議長	<p>ありがとうございます。「まなび屋」に関しては、公民館の活動だけでなく、坂井東小学校の行事、運動会での見守りボランティアとか、文化祭での体験活動のボランティアで、自主的な活動をやっていただいている。</p> <p>近隣の学校の方も知っていると、学生は忙しくなるのですが、子どもたちとふれあう場がたくさんあると勉強になりますという前向きなお返事をいただくので、そういうことも公民館をとおしてフォローしてあげるといいのではないかなと思っています。</p>
佐藤委員	<p>学・社・民融合の出前講座、学校と一緒にという事業で、公民館利用団体が学校に出向いているが、なかなか苦労は多いだろうけれど、いい事業だと思っているのです。具体的に、どういう成果があったのか、お願いします。</p>
玉木館長	<p>「内野中学校 DE 公民館活動」は、内野中学校の 1 年生約 200 名を対象に行う事業で、総合学習の一環であるとともに、子どもたちの交流を推進させることなどを目的に、公民館から十数団体が、二日間にわたり計 32 講座を開設し、さまざまな体験活動を行わせるものです。</p> <p>内野の盆踊りや、大正琴、英会話、演劇ワークショップなどの、さまざまな講座の</p>

	<p>開設を予定しており、子どもたちがそれぞれ4講座を受けるという形になります。</p> <p>利用団体は、発表する場があると励みになると聞いていますので、3年目になるのですが、今後も継続して実施していきたいと考えています。</p>
佐藤委員	<p>実際、話を聞くと、学校側がなかなか大変らしいのですが、準備をするのに学校と利用団体と、地元の人たちが一緒にやっていくのも非常にいいと思います。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。学校とのタイアップは大変なところがあると思いますが、今、石川委員、内木委員に、学校と共にやっていく中で、学校の受け入れ側としてはどのようなところが大変で、どこをクリアすれば一日公民館みたいな事業ができるか、アイデアや課題などがあつたらお聞かせ願えますか。</p>
内木委員	<p>現行の学習指導要領による授業時数が、小学校4年生から6年生までで、980時間です。それに、各種学校行事等が加わりますと、学校にもよりますが、だいたい1030時間より多くなります。新学習指導要領では、小学校4年生から6年生まで現行より35時間多い1015時間になります。公民館さんが出前授業のような形で、授業の一環として講師を派遣していただければ、持ち出しの授業時数は増えずに、子どもたちの負担も増加することはありません。現在当校の時間割表では、5年生以上は水曜日が5時間で、それ以外はすべて6時間です。単純に考えますと、水曜日も6時間になり、時間割表はいっぱいの状態になります。</p> <p>セーフティースタッフの方から、あいさがよくないと言われます。児童との様々なふれあい体験が少ないのかなと思います。この隙間を公民館さんが埋めてくれるとありがたいと考えます。</p> <p>先ほど、「ほっとハウス笹口」の話をお聞きして昼休みであつたら、授業時数に関係ないので、交流の場としてもいいのかなあとと思います。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。石川委員、いかがですか。</p>
石川委員	<p>年間計画がありますので、早めの準備が必要です。昨年度、その話をさせていただき、西地区公民館の方から早めに、打ち合わせをしていただきました。</p> <p>その際に配慮しなければならないのは、学校には子どもたちに求める目標像がありますので、それと事業のねらいが合致して、事業を進めない子どもたちの成長につながりにくい可能性があります。公民館、学校が同じねらいをもってやっていく、そして、講師選びも任せきりではなく、協力して一番適した方を呼んでいくとか、細かな部分まで打ち合わせないと、お互いに負担感になって、子どもの成長という最大の目的が達成しにくくなってくると思います。昨年度同様に、今年度も進めていただければと思っております。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。今、学校現場からの声なので、公民館もこういうものも考えながら、公民館らしさを出していただければと思っております。</p> <p>では、黒埼地区公民館、お願いいたします。</p>
鳴海館長	<p>平成28年度の事業報告、評価、平成29年度の事業計画を説明いたします。</p> <p>以下資料によって説明。</p>

郷議長	<p>ありがとうございました。では、今の黒埼地区公民館の報告、評価、事業計画につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。</p>
鳴海館長	<p>質問がなければ、少し事業説明に加えて補足説明をさせていただきますが、冒頭で、地域に出ていくという話がありました。黒埼地区では、コミュニティ協議会がふれあい協議会になっています。四つのふれあい協議会があつて、公民館は、ふれあい協議会と随時、出掛けて行って、共催事業をやらせていただいております。加えて、4ふれあい協議会と合同事業も実施し、その中で一緒に話しあいを行っています。</p> <p>コーディネーターはよく公民館に来て話をし、中学校の美術部の展示は、協力員、コーディネーターからの提案で実施しました。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。</p>
渡辺（正） 委員	<p>今、追加説明の中にあつたように、地域と密着した黒埼公民館の活動だと思います。この別資料の利用者回数、団体ともに、黒埼がダントツなのですね。</p>
鳴海館長	<p>利用者が多いのは事業だけの問題ではなく、新しい施設で駐車場があるということもあり、利用者の7割以上が旧新潟市の方で、施設も活性化しています。</p> <p>利用団体協議会の役員は、他地域の人で、役員が頑張ってくれて、黒埼地区と一緒にやろうと言ってくれますので、ほかとは違うという気がします。</p>
郷議長	<p>よろしいですか。ありがとうございます。なかなか立地条件、設備状況等も、活動には配慮がいるというように感じます。</p> <p>では、次に小針青山公民館、お願いいたします。</p>
河原館長	<p>平成28年度の事業報告、評価、平成29年度の事業計画を説明いたします。</p> <p>以下資料によって説明。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。今の小針青山公民館の報告、評価、計画につきまして、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。</p>
横坂委員	<p>18番「人権啓発活動地方委託事業」ということで発達障がいを取り上げています。これは、市内でも公民館がやっているのは、多分小針青山公民館のみだと思いますし、私も参加して、勉強したい、学びたいという地域の人や担当者の方もいらっしゃいます。</p> <p>紙面だけでは見えない、来られる方へのケアや配慮も必要とされるので、とても難しいのですが、職員がとても丁寧に接していたのが印象的でした。続けていただいているのが、非常にありがたいと思います。</p> <p>今年は、今までなかった家庭での人権という、取り組みについて、何か特別なものはありますでしょうか。</p>
河原館長	<p>家庭での人権は、一つの目玉的な形になっています。近々大学の先生に打ち合わせに行き、細かいところを詰めていきたいと思っております。</p> <p>今、テレビでも放送されていますので、関心は高まってきていると思います。</p>
横坂委員	<p>家庭教育力の向上というところで、30周年を迎える「すくすく」にずっとかかわってきたのですが、公民館は、現役のお母さんと子どもたちの活動のための部屋を確保</p>

	<p>してくれています。また、そのお母さんたちを支えたいOGのお母さんたちの部屋も確保してくださっていて、二人子どもがいる母さんの赤ちゃんを預かったり、活動が終ったときにお茶とお菓子の用意がOGによってされています。公民館が子育て支援のために部屋を取ってくださっているのも、一つの大きな支援のあり方と思っています。</p> <p>それで、そのお母さんたちが地域とつながったり、協力員になったりと、成長しているのを見ていて、幼稚園でやっている子育て支援とはまったく違う、親を育てている場で、その成果は確実に出てきている気がいたします。</p>
河原館長	ありがとうございます。
郷議長	<p>ありがとうございました。ほかにご意見、ご質問はございませんでしょうか。</p> <p>各館、今のご意見、ご要望、その中には公民館のあるべき姿の様なご意見がたくさんありました。それを汲みながら活動をし、広がりが出ていくといいと思っています。</p> <p>では、本日の議題「その他」に入りたいと思います。「中央公民館から公民館運営審議会の皆さんにお聞きしたいこと」。これについて、事務局から説明はありますか。</p>
阿部館長	<p>中央公民館から運営審議委員の皆さんに、ご意見等を聞いてもらいたいという文書ももらい、資料がないということで、利用状況をお配りいたしました。利用団体が減少しているということは、西区では該当しないような状況です。公民館全体で見るとそういう状況もあるのですが、西区ではないのかなという気がしたことと、2枚目に「年齢層内訳」がありますが、基本的には高齢者が多いということで、今後高齢者の利用者数が減っていくことを考えると、その下の年齢層の方が増えていくことを考えていかなければと思いましたが、そういうところも併せてご意見があれば伺いたいと思います。</p>
佐藤委員	<p>先ほど発達障がいのお話が出ましたが、市でも発達障がい支援の審議会等で取り組んできており、「JOIN」とか、県の「はまぐみ」等の支援機関もあるので、そういうところと、連携してはどうか。</p> <p>発達障がいというのは、今非常に大きな課題になっていますし、当事者の方も家族も、自分自身も発達障がいかわからないという部分があり、人権面で取り組んでくれたのは非常に有効だったと思います。家庭教育でも、自殺対策にしても、公民館だけでやろうとすると大変で、タイアップできる場所と一緒に、地域や市の課題みたいなものを作ってはどうか。</p> <p>西地区公民館で、利用者団体立ち上げのサポートを、去年やると聞いたので、特に高齢者などは、運営をどうしようとか、チラシはどうやって配布していいかも分からないので、サポートをしてもらえればいいのではないかと思います。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。ほかにかがでしょうか。</p> <p>実際に公民館で活動している渡辺瞳委員、どのように感じていらっしゃいますか。減少、若い人、新しい人、ここのところに出てはいますがけれども。</p>

渡辺（瞳） 委員	<p>去年、琴の「さかいわワンダーランド」をやらせてもらったのですが、募集をすることがすごく大変だなと思いました。どうしたら人が集まるのか、随分悩んだのです。</p> <p>直接学校のコーディネーターにお願いしたのですが、日にちが合わずに、来たい子はいるのに集まらないという思いに駆られ、横のつながりや、意見を聞いて、いろいろ考えることはできるのだろうなと思いました。</p> <p>私は琴をやっている、日本古来のものだけど、高校生とかに、バンドも必要ですが、琴とか日本人の原点みたいなものも広めたいという思いはあるので、どこかで何かかわれたらと思います。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。</p>
渡辺（正） 委員	<p>私も、こちらの公民館を利用している団体の一人です。自分が入っているサークルは、会員が減っていますが、職員の皆さんの協力をいただき、無料で講座をやったところ、六、七人集まり、そのうち二人、会員がプラスになりました。</p> <p>利用団体も、アイデアを出し合って、努力をし、公民館側からも協力や、アイデアをいただきながら、活動をしていかないと会員が減っていくのではないかと思います。高齢者は増えているから、黙っていても来るのではないかと、市報に載せてPRすれば充分と思ったのですが、簡単には来ないですね。</p>
阿部館長	<p>今の話で、会員が減っているから何かいい手立てはないかなという相談をもらい、興味を持っている人もいるかもしれないので、体験会をやってみたらどうでしょうか。PRは、公民館で行い、実際に効果があったということで喜んでいきますし、そういうことがあれば、サポートしていきたいと考えています。</p>
横坂委員	<p>それから、「ほっとハウス笹口」では、1週間に1回「ゆりの時間」があつて、いつもは昼休みに掃除をするのですが、1週間に1日だけ掃除をしない日をつくり、その時間で地域の人が樽太鼓などを子どもたちに体験してもらう。そこで、チラシを配って、「公民館ではこういう活動をしているので、おいで」と声をかけています。そこに来る子たちは興味があるので、行ってみようと思ったりします。紙だけより人との交流が成果を出しているようです。</p> <p>楽しそうということを出していき勉強の場を公民館でさせていただいたり、講座、チラシの作り方、会を楽しく運営する方法を、プロのアドバイスなどをもらいながら学ぶ講座を開いていただくと、ヒントになると思います。</p>
佐藤委員	<p>関連して今の話ですが、何かやりたいと思っている人はけっこういると思うので、どんな活動をしていいかわからない人に、公民館に言うと、立ち上げ方から最初の講師の紹介まではしますなど、手助けがあると、結び付くのかなと思います。</p> <p>また、公民館の利用申請も、パソコンでしかできないようになっていて、年配の方はパソコンで申し込みをするのはとても辛いから、もうやめようみたいな話も聞くのですよ。紙での申請もできるようにして、パソコンには公民館の職員が入力してあげてほしい。</p> <p>公民館でコピーするときは申請書を書かされるのが大変で、内野の新しいまちづ</p>

	<p>くりセンターは、コンビニと同じで、お金を入れると10円で1枚できるので、公民館も利用者が使いやすい機械を検討していただければ、利用しやすくなるのかなど。横坂委員が先ほどおっしゃったように、ちょっとしたお手伝いをしていただけるといいのかなという気がします。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この問題については、きっと公民館の永遠の課題なのだと思います。やりたい人はいる。でも来ない。チラシを出しただけでは来ない。楽しい雰囲気、それはどう出したらいいのだろう。利用者目線での公民館職員の、笑顔あふれる温かいサポートということなのだと思います。</p>
郷議長	<p>続いて、第2回の運営審議会についての広報はございますか。</p>
阿部館長	<p>第2回は、例年11月に行っておりましたが、事業費が配分された後に、事業案を作り、皆さんから意見をお聞きしながら、新しい年度の事業計画に手を加えていければと考えています。</p>